

薬局トランスフォーメーション

三菱電機ITソリューションズ 「調剤Melphin/DUO」

三菱電機ITソリューションズは、過去35年以上にわたり薬局向けシステムの開発や販売を手がけてきた。同社が提供する保険薬局向けシステム「調剤Melphin/DUO」シリーズは、処方箋受付から服薬指導まで保険薬局の業務を幅広くカバー。さらにオプションシステムの組み合わせによって、保険薬局に特化したセミセルフ型も可能なPOSシステムと連動する機能や、在庫管理・経営管理といった経営面までトータルに支援する機能を備えている。

昨今、多くの企業が業務効率化・生産性向上、価値創造やビジネスモデルの変革に向けてDX（デジタルトランスフォーメーション）への取り組みを行っている。

保険薬局も例外ではなく、DX化の波が押し寄せてきている。今回の新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけにして一気にオンライン化が進んでいることが一例だ。患者が自宅にいな

らオンライン診療で医療機関を受診、電子処方箋が任意の薬局に送信され、オンライン服薬指導を受けるといった流れが当たり前になる時代がすぐそこまできている。

今回、同社の展示ブースでは「薬局トランスフォーメーション～DX化で目指す薬剤師・薬局の未来～」をテーマに、急激な変化への対応を求められている薬剤師・薬局を支援する様々な機能を紹介する。

例えば、電子薬歴システム「Melhis」では、新たに開発した「服薬指導ガイド」(SY-POS2)により、患者特記・併用薬・処方内容・過去の薬歴といった情報をもとに、薬剤師が指導・確認すべき項目を自動的に抽出、提案する。提案内容は処方時期によっても変わり、初回処方では服用の仕方、2回目では副作用の有無の確認が提案されるという。指導後は画面上で服薬指導を行った項目にチェックを付けるだけ

で自動的に薬歴が作成され、追加の情報があればキーボードから入力することも可能だ。

しっかりした服薬指導と薬歴作成ができた上で、業務を効率化することをコンセプトに製品化されており、電子薬歴作成業務が効率化されることで、対人



業務への時間創出が実現され、かかりつけ薬剤師・薬局の役割発揮に寄与するという。

フォローアップ機能も充実している。継続フォロー対象患者に対してフォローアップ日程の自動作成が可能だ。さらに、昨年業務提携を発表したメドピアの「kakari」との連携により、「kakari」を利用している患者に自動的に服薬状況確認チャットを送信、患者からの回答を自動で薬歴に記録できるようになり、薬剤師・薬局と患者の円滑なコミュニケーションをサポート

する。

そのほか、チェーン薬局向けに、在庫管理/経営支援/薬歴共有といったクラウド型本部システムでチェーン薬局の管理業務もサポートする。各店舗の処方箋入力を本部で代行する「入力センターシステム」で店舗の事務作業、事務要員の省力化も可能としている。

薬局・薬剤師への期待の高まりと共に薬局の業務領域は拡大の一途をたどっているが、同社は製品やサービスの提供を通して、薬局の変化をサポートしていく考えだ。

薬剤師目線の電子薬歴

C.Medical「コネクトレポート」

京都府を中心に薬局を展開するゆう薬局の子会社、C.Medicalが販売するアプリ「コネクトレポート」は、現場の薬剤師目線で使い勝手の良さにこだわったクラウド型電子薬歴。在宅や薬局での患者対応など様々な場面の業務効率化に役立つほか、本当に現場で必要とされる機能に絞り込み、低コストでの導入や運用を実現している。さらに、オンラインでの服薬指導や服薬後フォローアップなどを支援する機能「コネクトオンライン」の開発を進めている。

「コネクトレポート」は、レセコンから患者情報や処方情報を吸い上げ、クラウド上で電子薬歴として機能する。いつでもどこでも携帯端末のiPadやノートパソコンで薬歴を閲覧できる。現場の薬剤師目線で使い勝手の良

さにこだわったことが特徴だ。システムに多数の機能を盛り込んでも、現場では十分に使われないことは多い。開発に当たっては、誰もが使いこなせるように本当に必要とされる機能に絞り込み、操作性も重視した。

在宅訪問時にその場で報告書と薬歴を一括で入力したり、撮影した写真を共有する機能で患者の状態やオーダーメイドの調剤を薬剤師間で引き継ぐなど、業務負担軽減に役立つ様々な機能を搭載。医療機関からの情報提供書類など紙の書類をクラウド上で保存しペーパーレス化を実現する機能や、カレンダー画面から訪問施設や患者情報を確認できる機能もある。訪問する患者の所在地を画面上の地図に表示するなど、現場からの要望を機能に反映さ

せた。

開発中の「コネクトオンライン」は、患者のスマートフォンなどにダウンロードしてもらった専用アプリを通じ、ビデオ通話や処方箋画像の送受信のほか、服薬期間中のフォローを行うもの。薬剤師は、各種テンプレートから質問文を選択したり、自ら作成したりして、患者に送信する。患者は画面上で、質問に「はい」「いいえ」などで回答する。それを受けて薬剤師は必要に応じて電話をかけて詳しい状況を聞いたり、服薬指導を行って患者をフォローする。

画一的に質問を自動送信するシステムでは、患者の個性が十分に考慮されず、返答率が低下する可能性がある。



薬剤師が個々の患者に応じた最適な質問を投げかけられる仕組みを目指している。

「コネクトレポート」の初期導入費用は大手ベンダーの10分の1程度。このほか薬局の店舗数に応じて毎月の利用料の支払いが必要になるが、利用端末台数がどれだけ増えても利用料は一定で変わらない。

第54回日本薬剤師会学術大会

(順不同)



久光製薬株式会社

代表取締役社長 中富一榮

九州本社 〒841-0017 佐賀県鳥栖市田代大官町408番地
東京本社 〒100-6330 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号



ゼリア新薬工業株式会社

代表取締役社長 伊部充弘

〒103-8351 東京都中央区日本橋小舟町一〇一
電話 〇三(三六六三)二三五一(代表)



大塚製薬株式会社

東京本部

〒108-8242 東京都港区港南二丁目十六番四
電話 〇三(六七七)一四〇〇(代表)



株式会社アステム

代表取締役社長 吉村次生

〒870-8602 大分市西大道二丁目三番八号
電話 〇九七(五四三)九九五二



中北薬品株式会社

代表取締役社長 中北馨介

〒460-8515 名古屋市中区丸の内三丁目一五(油伊ビル)
電話 〇五二(九九七)三六八



東邦薬品株式会社

全ては健康を願う人々のために

〒155-8655 東京都世田谷区代沢五丁目一
電話 〇三(三四一九)七八一一

第一薬科大学

〒815-8511 福岡市南区玉川町二丁目一
電話 〇九二(五四一)〇一六一



大阪医科薬科大学薬学部

〒569-1094 大阪府高槻市奈佐原四丁目一〇〇
電話 〇七二(六九〇)一〇〇〇